

音楽会ライブ中継で花開いた地域交流

- 教育環境の変化をＩＴの利用でサポート -

長野市立浅川小学校 宮 沢 俊 充

esmiyazawa@es.nagano-ngn.ed.jp

<http://www.nagano-ngn.ed.jp/asakawjs/index.html>

キーワード：地域との連携，交流学習，インターネット，ライブ中継，テレビ会議システム

ＩＴを活用した「開かれた学校づくりを目指した」地域との交流および学校間交流

平成１４年度は，週５日制の導入及び総合的な学習の時間の本格実施，開かれた学校づくりなど学校を取り巻く教育環境が変化をしている。

子供たちにとって学習成果の発表の場である音楽会はこれまで土曜日に行われていたが，平日に行われることに決定し，保護者から「音楽会で子どもの姿を見たい」と言う要望が上がってきた。この要望をＩＴにより実現にするため，技術面や著作権などの課題をクリアし，インターネットへのライブ中継を行い，学校と保護者・地域の絆が深まった事例を紹介する。

また，そのことによりＩＴを活用した学習にも関心が高まり，更に交流学習へ発展し学習を深めることができた。

1 研究の背景

長野市は，平成 10 年度から市内の各学校（68 校）を光回線で結び，教育ネットワークシステムを構築している。この環境を活かして，長野市教育の情報化推進共同研究において，ＮＴＴ東日本㈱長野支店（以下，ＮＴＴという）とともに，ＩＴを教育の現場で活用するため次の研究目標を持って活動してきた。

ＩＴを活用した授業改善と研究成果に基づく情報活用の普及・拡大への取り組み

学校と家庭や地域社会相互の絆を深める学校情報流通のあり方と仕組みの検証

教育現場におけるＩＴを有効活用するための支援環境のあり方

本研究では，の研究の一貫として，保護者や地域の人々が遠隔で参加するしくみを検証し，地域との連携による学習の広がりについて研究することとした。

2 実践研究の概要

2 - 1 音楽会のライブ中継による地域との交流

(1) 目的

音楽会のライブ中継の実践を通じて，ＩＴを利用した学校と家庭のコミュニケーションのあり方，特に学校行事に保護者や地域の人々が遠隔で参加するためのしくみを検証し，教育面及び技術面について研究した。

(2) 学校での取り組みの工夫

パスワードにより保護者に限定

保護者からの「音楽会で子どもの姿が見たい」という要望を実現するため，子供たちの肖像権等に配慮し，パスワードを設け，一般のインターネット利用者は見る事ができないように工夫した。

保護者への通知

初めての試みであり，音楽会のお知らせや学級だよりなどを通じて，保護者へ周知を行った。

著作権の許諾

音楽の著作権については，日本著作権協会の許諾を受けて，インターネットへライブ中継した。

また，学校ホームページのアップについても許諾を得て実施した。

(3) システム環境

システムは，共同研究者であるＮＴＴとともに，教育委員会の許可を得て環境を整備した。

学校・センタ間は 100M のネットワークを利用し，センタから 10M で，インターネットへ接続し配信した。

インターネット環境に配慮し，標準画質と高画質を選択し視聴できるようにした。

セキュリティを確保しながら，ファイアーウォールを越えて学校情報（イントラ内）をインターネットへ配信した。



(4) 成果

保護者からはよい評価を得ることができ、これまでよりも学校ホームページへのアクセス回数が格段に増えるなど、保護者等の学校への関心も高まったことが窺がえた。

ライブ中継へのアクセス数 述べ71人 最大同時接続数 22人 (世帯数: 247)

保護者等からの感想

- ・大阪のおばあちゃんがインターネットで見えてくれて、「孫の顔が見れてよかった」と言ってくれた。
- ・音楽会の雰囲気が伝わってきてよかった。
- ・子どもの顔がわかって大変よかった。
- ・実施校以外の学校から、利用意向が多く寄せられた。

ホームページアクセス数 約990回

(音楽会実施後(H14.11.1)~H15.1末)

音楽会実施以前は、平均 月50回程度



(5) 課題及び今後の取り組み

上記の成果を踏まえ、今後も継続的に、より簡便にライブ中継を行っていくため、技術的なハードルをクリアし、ライブ中継の利用事例を収集し学校における活用の普及・定着を図っていく。

運用面

- ・保護者のパソコン環境への十分な配慮(再生ソフトやホームページの作成方法等)
- ・ライブ中継実施にあたってのカメラ配置への配慮
- ・会場のライブ中継機器類設置における配慮(音声や連絡体制 等)

技術面

- ・PC等ライブ中継実施環境の充実・整備
- ・インターネット配信への配慮
- ・セキュリティ上の配慮 等

2-2 他校とのテレビ会議システムによる学校間交流

(1) 研究の目的

交流学習におけるテレビ会議の最も効果的な活用と技術的検証およびシステム利用の簡便性について、研究を行った。

(2) 教育面での検証

< 点の学習から面的学習への発展 >

「やぎ」のメメを飯山市立戸狩小学校からもらったことをきっかけに、双方の学校訪問による体験学習を経験し、日常的に協働学習を続けていくツールとしてテレビ会議を利用した。仮想的体験学習ではあるが、時間の調整のみで学習が実現するため、子供たちの疑問に即対応した効果的な学習を実現することができた。

また、交流学習を継続し発展させるため、協働学習支援システム(CECで開発)の利用も計画中であり、多様な学習場面に合わせたIT活用が可能となった。



(3) 技術面での検証

< システムの簡便性による利用の普及 >

- ・ファイヤーウォールや多段プロキシを意識せず利用できることにより、テレビ会議による他地域の学校との日常的な交流学習を簡易に実現することができた。
- ・運用面では、メールに添付されたパスワードにより会議室に簡単に入れるように工夫した。

3 まとめ

教育現場においては、インターネットやテレビ会議などのITは学習を行う上でのツールにすぎず、ITをいかに効果的に活用し子供たちの学習を深め発展させていくかが、重要であると考えます。

音楽会のライブ中継では、地域へと学習の輪が大きく広がり、またテレビ会議の利用では、海外や他地域等どこでも誰とでも協働学習ができる環境によりITの多様な学習場面への利用実現という大きな成果があった。

一方、本研究において、従来よりも簡単にITの利用が可能となったが、技術面や設備面および授業に向けてのサポートなど、更に充実していく必要があると考える。